

令和4年度 ヤングケアラー等に関する実態調査 結果概要

奈良県立教育研究所

【調査目的】

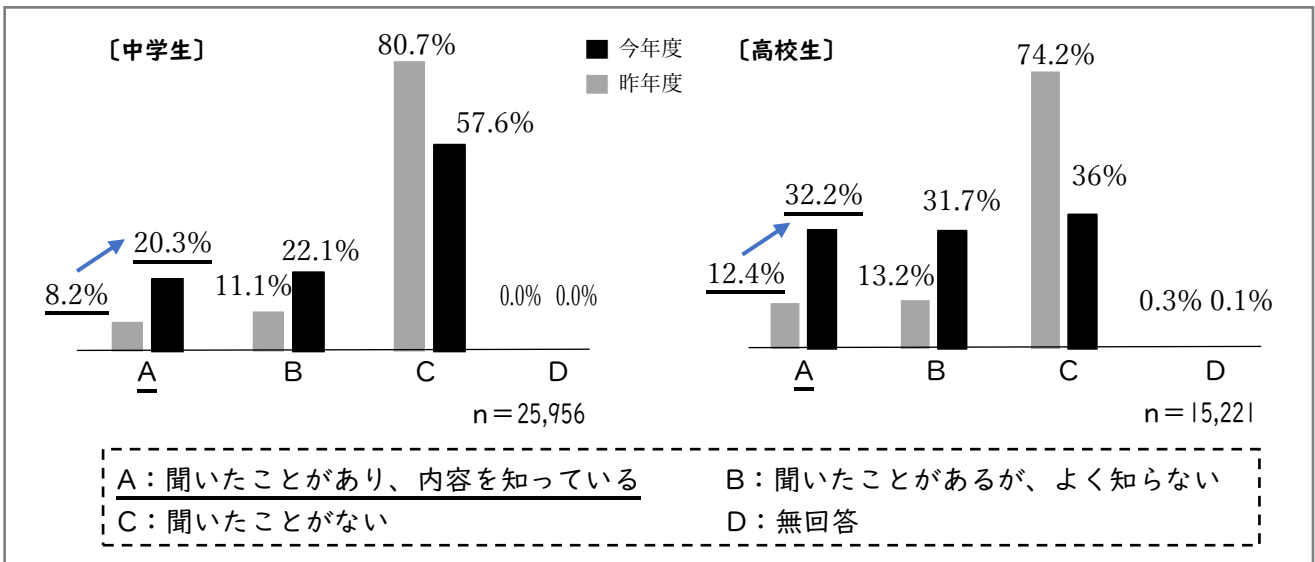
- ヤングケアラーに関する認知度向上、実態の把握及び必要に応じた支援に資する。
- いわゆる「生理の貧困」の問題に係る高校生の実態を把握する。

【調査方法等】

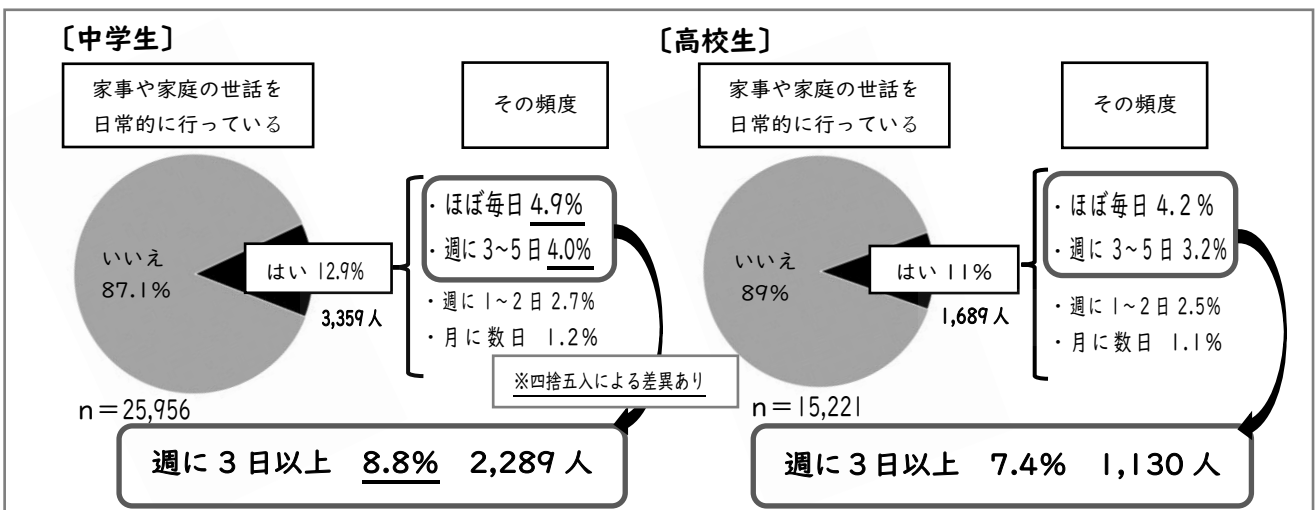
- 調査対象 県内公立中学校全生徒 約30,500人 県内公立高等学校全生徒 約22,000人
- 実施方法 Google Workspace for Education を使用し、パソコン等を用いて回答する。
- 実施期間 令和4年6月2日から6月30日
(学校の実態に応じて左記期間以外の実施も可としたため、最終7月20日まで実施した)
- 回収状況 有効回答者数及び回答率
 - ・ 県内公立中学生 25,956人 回答率 85.1%
 - ・ 県内公立高校生 15,221人 回答率 69.2%

【ヤングケアラーに関する調査結果】

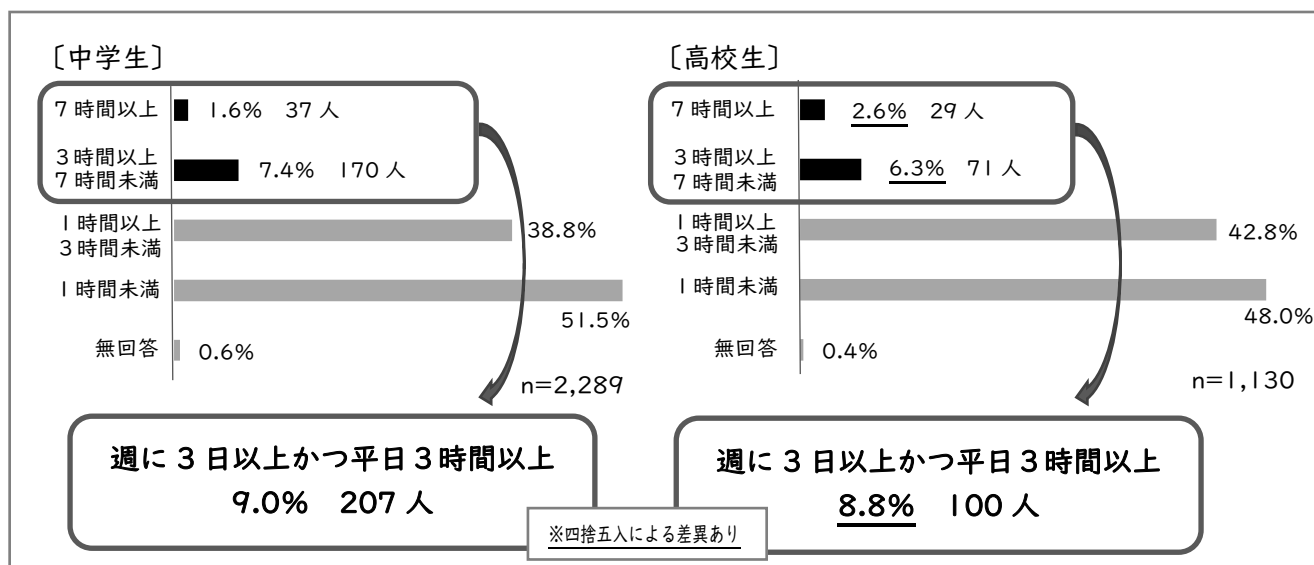
- ① ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容を知っている」と回答した生徒は、中学生が20.3%、高校生が32.2%であり、認知度は昨年度より大幅に上昇した。



- ② 家事や家族の世話を日常的に行っている生徒（中学生3,359人、高校生1,689人）のうち、その頻度が「ほぼ毎日」・「週に3～5日」（以下、週に3日以上）と回答した生徒は、中学生が2,289人、高校生が1,130人であり、全体に対する割合はそれぞれ8.8%、7.4%であった。



- ③ 週に3日以上、家事や家族の世話をを行っている生徒（中学生2,289人、高校生1,130人）のうち、平日1日あたりの家事や家族の世話をを行う時間について、「3時間以上7時間未満」・「7時間以上」（以下、平日3時間以上）と回答した生徒は、中学生が207人、高校生が100人であった。

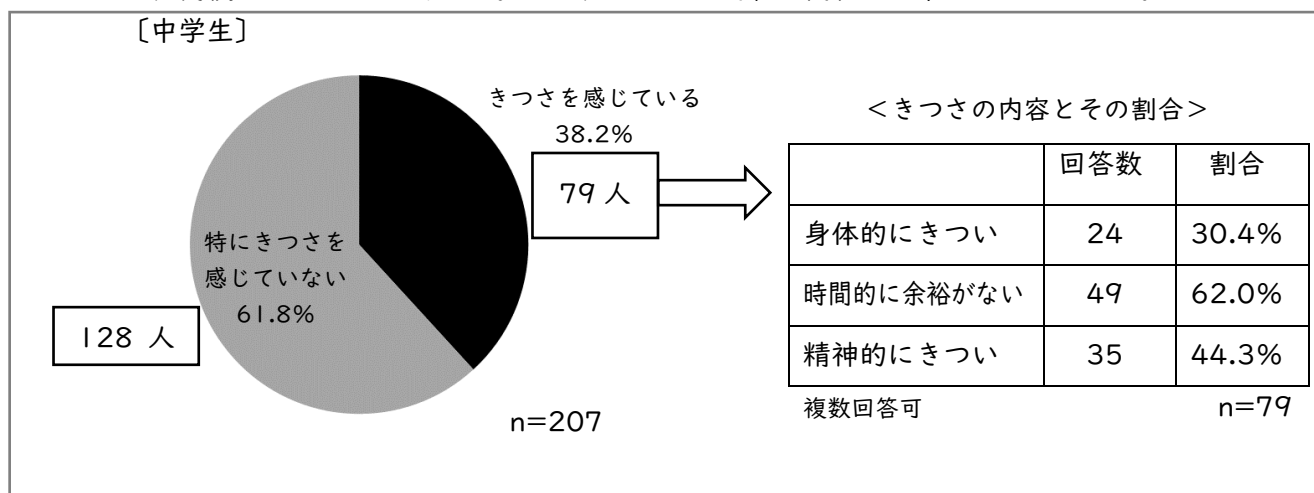


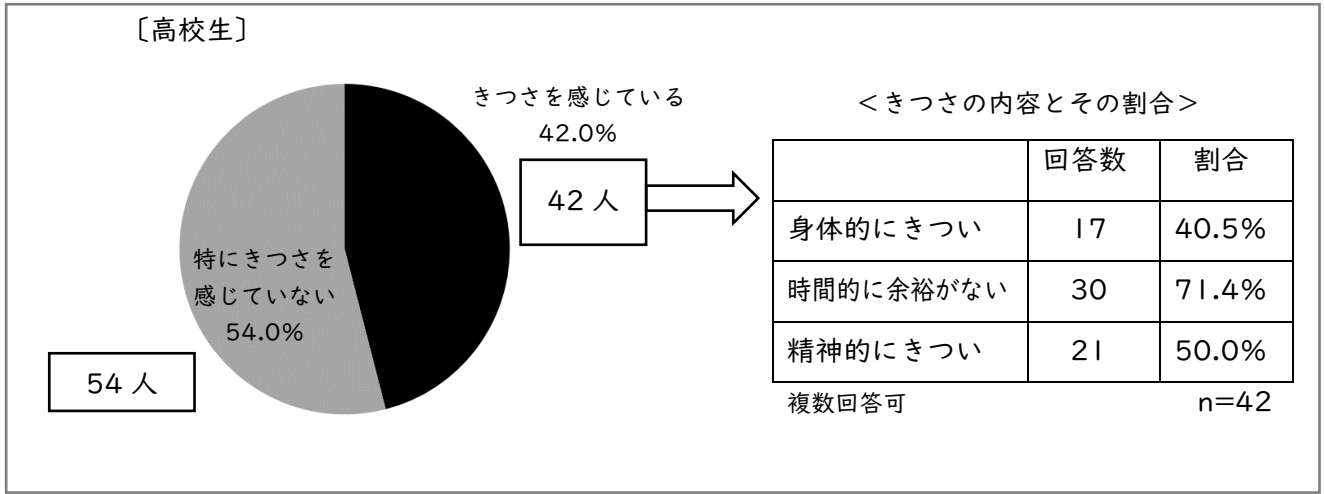
- ④ 週に3日以上かつ平日3時間以上、家事や家族の世話をを行っている生徒（中学生207人、高校生100人）の家事等の内容やきつさなどについて分析した。

(ア) 家事や家族の世話の内容に関して最も多かったのが「家事」、次いで「きょうだいの世話」、「外出の付き添い」であった。

対象生徒の回答（複数回答可）の上位5項目			
	家事や家族の世話の内容	回答数	割合
[中学生]	1 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	157	75.8%
	2 きょうだいの世話	144	69.6%
	3 外出の付き添い（買い物、散歩など）	125	60.4%
	4 見守り	80	38.6%
	5 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	72	34.8%
n=207			
[高校生]	1 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	80	80.0%
	2 きょうだいの世話	74	74.0%
	3 外出の付き添い（買い物、散歩など）	54	54.0%
	4 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	41	41.0%
	5 見守り	40	40.0%
n=100			

(イ) 家事や家族の世話をしていることに対して、「身体的にきつい」、「時間的に余裕がない」、「精神的にきつい」など、何らかのきつさを感じていると回答した生徒の割合は、中学生で38.2%、高校生で46.0%であった。また、きつさの内容の割合は以下ようになった。





(ウ) 出席の状況について「よく欠席する」と回答した中学生が7.7%、高校生が17%であり、遅刻や早退の状況について「よく遅刻や早退をする」と回答した中学生が8.7%、高校生が7%であった。

〔中学生〕			〔高校生〕		
	欠席	遅刻や早退		欠席	遅刻や早退
ほとんどしない	65.7%	65.2%	ほとんどしない	63.0%	68.0%
たまにする	26.1%	23.7%	たまにする	20.0%	25.0%
よくする	7.7%	8.7%	よくする	17.0%	7.0%
無回答	0.5%	2.4%	無回答	0.0%	0.0%
n=207			n=100		

(エ) いまの状況に「困りごとや不安がない」と回答した生徒の割合は、中学生・高校生とも約4割であった。一方、「困りごとや不安がある」と回答した生徒の主な内容（複数回答可）は以下のとおりである。

〔中学生〕			〔高校生〕		
困りごとや不安の内容	回答数	割合	困りごとや不安の内容	回答数	割合
自分の時間が取れない	67	32.4%	宿題をする時間や勉強する時間がない	26	26.0%
睡眠が十分に取れない	49	23.7%	睡眠が十分に取れない	26	26.0%
宿題をする時間や勉強する時間がない	40	19.3%	家族の経済的状況（生活費や学費）について、不安がある	26	26.0%
将来の夢や進路について、不安がある	39	18.8%	自分の時間が取れない	25	25.0%
友人と遊ぶことができない	31	15.0%	将来の夢や進路について、不安がある	23	23.0%
n=207			n=100		

(オ) 教員への相談希望について、中学生・高校生ともに「相談しても解決しないから、相談したくない」の回答が最も多く、次いで「先生以外に相談できる相手がいるので、相談しなくていい」が多かった。また、その他の内容は、「相談するほどのことではないから」という趣旨の記述が多かった。

〔中学生〕			〔高校生〕		
相談希望	回答数	割合	相談希望	回答数	割合
相談したい	12	5.8%	相談したい	7	7.0%
すでに先生に相談している	16	7.7%	すでに先生に相談している	13	13.0%
先生以外に相談できる相手がいるので、相談なくていい	39	18.8%	先生以外に相談できる相手がいるので、相談なくていい	14	14.0%
家族のことだから相談したくない	25	12.1%	家族のことだから相談したくない	12	12.0%
相談しても解決しないから、相談したくない	40	19.3%	相談しても解決しないから、相談したくない	33	33.0%
その他	38	18.4%	その他	8	8.0%
無回答	37	17.9%	無回答	13	13.0%
n=207			n=100		

〔生理の貧困に関する調査結果〕 ※高校生のみ

① 女子高校生 7,535 人、及び性別を答えたくない生徒 332 人の合計 7,867 人のうち、「何らかの理由で生理用品を用意することができずに困っている」と回答した生徒は 30 人で回答者全体の約 0.4%であった。また、生理用品を用意できない理由で最も多かったのは「経済的な理由」、次いで「家庭の事情」であった。

生理用品を用意できない理由 (複数回答可)	回答数	割合
経済的な理由	9	30.0%
恥ずかしく感じ、購入できない	5	16.7%
家庭の事情	6	20.0%
答えたくない	4	13.3%
その他	7	23.3%

n=30

② 相談状況について、5 人 (16.7%) の生徒が「相談している」と回答し、23 人 (76.7%) の生徒が「相談していない」と回答している。「相談している」と回答した相談相手は、友人・家族であった。また、「相談していない」の理由のうち、「相談しても解決しないと思うから」が最も多かった。

